



もう一度考えてみよう、飼い主の責任



1 屋内飼育

屋内飼育は、交通事故や伝染病などを予防できることから、猫の健康と安全を守り、長生きできます。



2 不妊去勢手術

不妊去勢手術をすることで、望まない繁殖を防止できるほか、生殖系の病気予防やマーキング行為の減少が期待できます。



3 身元表示

万が一脱走等をした場合のために、名前やマイクロチップを付けて身元がわかるようにしましょう。



4 生涯ともに

猫も生まれたからには生きたいもの。命を預かる責任と愛情を持って、命を全うするまでお世話をしましょう。



猫の飼育にどれくらいお金がかかるのか

1 匹当たりにかかる費用（年間）

■食料費	約 50,000 円
■日用品費	約 12,000 円
■光熱費	約 15,000 円
■予防接種費	約 30,000 円
■医療費	約 20,000 円
■ペット保険料	約 20,000 円

合 計 約 **147,000 円**

さらに、初期費用や不妊去勢手術費、緊急的な病気等による手術費なども合わせるともっと高額になります。

多頭飼いを後悔した内容として

「大変」「費用が高額」という理由がダントツで高い！

世話が大変 38.3%

飼育費用が高額 37.4%

先住犬猫との喧嘩 22.1%

性格が合わない 2.1%

出典：株式会社 Wizleap「ペットの多頭飼いの後悔に関するアンケート調査」

多頭飼いを始める前にこういった負担がかかるのかをしっかりと把握していなかった状態で飼い始めたことが大きな後悔へとつながります。

＼ 手遅れになる前に相談しましょう！ ／

多頭飼育のお悩み

に関するお問い合わせ先

■山形県置賜保健所 生活衛生課 ☎ 0238-22-3750

■白鷹町町民課くらし環境係 ☎ 85-6131

※本誌 15 ページに、「猫の不妊・去勢手術費補助について」のお知らせを掲載しております。ぜひ、ご確認ください。

少しでも
気になったら
まずは相談

だニャン!!



猫が好きな人も、嫌いな人も

理想とする世界は同じ。

それは、「野良猫のいない世界」。



山形県動物愛護推進員
おおき みわ 大木 美和 さん（中山）

町内でも実際に発生している多頭飼育崩壊……。その現場へと足を運び、問題解決に努めている大木さんに、現状の課題と解決への道筋についてお話を伺いました。

時代とともに変わってきた 野良猫の存在――

ひと昔前の野良猫の中には、いくつもの名前を持つような猫がいました。自由気ままに複数の家を回りながら餌をもらい、人懐っこく愛嬌もありました。野良猫というより地域猫のような存在です。しかし、現代の多頭飼育崩壊の環境下にいる猫は全く違います。増えすぎた結果、名前も与えられず近隣からも嫌われる存在――。

また、そういった環境にいる猫たちは、どれも同じ顔をしていません。表情が全くないのです。甘える、怒るといった感情を人に対して見せることもなく、ただ生きるために餌を食べ、繁殖を繰り返しているのです。そのような猫たちは、果たして幸せなのでしょう。

猫に関心のない人にも 問題意識を持ってほしい

猫が好きな人と嫌いな人の割合はそれぞれ2割ほどで、残りの6割くらいが猫に興味がない人と言われています。この6割の人たちがどれだけ関心を持てるかが、多頭飼育崩壊の解決に大きく関わってきます。猫に関心のない人でも、この問題に対して向き合ってくれる方が増えれば、早期の対応が可能になるからです。

多頭飼育問題に悩む方には、さまざまな事情があります。これまで数々の現場に足を運びましたが、ほとんどの方が高齢者の一人暮らし世帯です。外出する機会も減り、地域との交流も少なくなることにより、心のよりどころが猫に向かう傾向があるようです。

猫は、孤独や貧困に結びつきやすい動物と言われており、不満や悩みを抱える人の欲求と、猫の入手のしやすさが合わさることで大きな社会問題へと発展します。多頭飼育が限界を超えて起こる多頭飼育崩壊は、猫を多く飼うことが問題の本質ではなく、人の心や体の病気、貧困、高齢者の孤立問題などといった福祉的な問題も根底にあることが多いのです。

また、猫が増えすぎると、飼い主も正常な感覚を失うことがあるため、地域の方の一般的な感覚が救いの一手となるケースがあります。「臭いが前よりひどくなった」「多くの猫が家に自由に出入りしている様子が見える」など、ちょっとした変化に地域の方が気づくことにより、早期発見が期待できますので、気になることがあれば、

早めに保健所や行政へ連絡していただきたいと思います。

猫だって 幸せに暮らせる町に――

猫が好きな人も嫌いな人も、理想とする世界は共通しています。それは、「野良猫のいない世界」です。猫が好きな人は可哀想な猫が減ってほしいと願っているし、猫が嫌いな人も猫そのものを嫌うというよりは、迷惑行為をする猫が減ってほしいと願っているものです。何よりも、猫だって幸せになりたいはず。地域の人や猫を悲しませないように、飼い主としての責任、そして地域との連携。それぞれの立場でできることを今一度考えていただきたいと思います。そうすれば、どんな命も幸せになれる素敵な町に近づけるはずです。